

平成22年10月29日(金)

1. ごあいさつ

総務幹事 横山繁昭(北海道立子ども総合医療・療育センター)

ここ札幌は駆け足のように秋が過ぎ、昨日には初雪が降り、あの気が狂うような暑さが恋しいこの頃です。

記録的な猛暑の中、9月3日、4日と2日間、2010年小児腫瘍分類委員会症例検討会と第30回日本小児病理研究会が井上 健会長のお世話で、大阪市立総合医療センターにて開催されました。地獄のような外とは違い、会場のさくらホールははととても広く、空調もちょうどよい温度で快適に学会を行うことが出来、幸せでした。井上会長を中心とした大阪市立総合医療センターの皆様には本当に感謝申し上げます。

分類委員会は秦顧問、小林顧問の両先生も出席頂き、次の小児腫瘍カラーアトラスとして群馬大学平戸純子先生を中心とした「中枢神経系」の改訂作業が報告されました。また、症例検討会では予定されていた講師に急遽代わって、中澤温子先生の教育講演「小児の悪性リンパ腫」の題目で中澤流味付けされた、まとまった話を聞くことが出来ました。終了後に分類委員会と小児病理研究会との合同懇親会がリバーサイドホテル(陽水の歌は流れなかったが)で開かれました。豪華なご馳走で皆さん盛り上がりました。2次会は上階のレストランで、ライトアップされた大阪城が望まれ、本当に大満足でした。

次の日は早朝にもかかわらず、ほとんどの方が出席して、初のモーニングカンファレンス(胎盤病理)が行われ、大成功でした。小児病理研究会では佐多徹太郎先生の「ウイルス感染症の病理」の特別講演を頂きました。さらに30周年記念講演として「日本小児病理研究会30周年を迎えて」との題目で小林庸次先生(前大阪市立総合医療センター病理部長)から“会の意義と歴史”について第1回大会から余す所なく詳細でかつ面白いお話を頂き、本当に感銘を受けました。後輩のため是非ともこの貴重な内容をホームページか何かに残して頂きたいと存じます。

今回の学会ではいつもより活発な論議が為され、とくに積極的に若手の発言も目立ち頼もしく感じられました。財政など色々な問題を抱えておりますが、若い病理医が生き生きと活動できる会が一番ですので、皆で更に盛り上げていきましょう。

次の「第31回日本小児病理研究会」は埼玉県立小児総合医療センターの岸本宏志会長のもとで横浜で行われることになっており今から楽しみです。

なお、「第32回日本小児病理研究会」は大阪府立母子総合医療センターの中山雅弘先生が主宰されることが決まっております。よろしくお願い致します。



合同懇親会(大阪リバーサイドホテル)にて

2. 第30回日本小児病理研究会報告

第30回日本小児病理研究会が平成22年9月4日（土）に大阪市立総合医療センター病理部井上健先生のお世話で大阪市立総合医療センターさくらホールにて開催されました。

今回の主題は周産期・小児期の感染症で多数の演題（一般演題5題、主題9題）の発表が行われ、活発な討論が行われました。特別講演、教育講演の演者の先生とタイトルは下記の通りでした。

特別講演 国立感染症研究所 感染病理部 佐多徹太郎先生「ウイルス感染症の病理：病態の理解のために」

教育講演 大阪市立総合医療センター 感染症センター 塩見正司先生より「小児急性ウイルス感染症の重症合併症」

さらに、今回は30周年記念講演として南大阪病院病理診断科・大阪市立総合医療センター病理部小林庸次先生より「日本小児病理研究会30周年を迎えて」をお話しいただきました。

研究会終了後開催された小児病理セミナー「白血病とその類縁疾患」の表題と講師の先生は以下の通り。

骨髄塗抹標本鏡顕時のポイント（京都府立医科大学臨床検査部 稲葉 亨先生）

骨髄生検病理標本の見方（東京歯科大学市川総合病院臨床病理科 宮内 潤先生）

MLL関連乳児白血病をめぐる話題（大阪市立総合医療センター・小児医療センター 小児血液腫瘍科 原 純一先生）

ダウン症におけるtransient abnormal myelopoiesis(TAM)の最近の知見（東京歯科大学市川総合病院臨床検査科 宮内 潤先生）

サテライトミーティング(胎盤病理モーニングカンファレンス)

今回、研究会初の試みとして、大阪母子保健医療センター 中山雅弘の発案、企画にて小児病理研究会のとしてが研究会に先立ち、朝8時から9時まで開催され、3演題が発表された。

前日には恒例の腫瘍分類委員会症例検討会の後に合同の懇親会が開催され、当日も多数の参加者での活発な議論が交わされ、盛会でした。

井上健会長はじめ運営スタッフのみなさまにこの場をお借りして深謝します。

松岡記



開会の挨拶をする井上大会長

3. 地区集会のお知らせ

第64回 関西小児病理研究会

2010年1月15日(土)午後1時30分から(予定)

於;大阪市立総合医療センター大会議室

世話人;

大阪母子保健医療センター 中山雅弘先生

第119回 関東東海地区小児病理カンファレンス

2011年2月5日(土)午後3時から(予定)

於;国立成育医療研究センター

世話人;

国立成育医療研究センター 中澤温子先生

*いずれも予定で、日程変更の可能性があります。詳細は世話人の先生にお問い合わせ下さい。

4. 幹事会・総会

平成21年9月5日(土)に幹事会ならび総会が開催された。

1)平成21年度会計報告および平成22年度予算案について

事務局より下記の報告が、小木曾嘉文監事の監査結果を添えて呈示され、承認された。

会員数の減少と会費納入率の低下により、会の存続自体が危機的な状況にあり、これらの改善が今後の課題となった。

2)第100回日本病理学会におけるコンパニオンミーティングについて

平成23年4月27日から4月29日の3日間、横浜市で開催される第100回日本病理学会学術総会におけるコンパニオンミーティングについては、開催が最終日翌日となること、会場が東京都内に移動することなどより、見送ることとなった。

3)第30回日本小児病理研究会について

井上健学会長より研究会の状況が報告された。

4)第31回日本小児病理研究会について

岸本宏志先生(埼玉小児医療センター)より、神奈川県歯科大学横浜研修センター(横浜市)において平成22年9月3日(土)開催を予定しているとの報告があった。主題は小児消化器疾患(炎症性腸疾患を中心に)。なお、前日の9月2日(金)には小児腫瘍症例検討会を開催する予定の報告もされた。

5)次期副学会長の選出

第32回日本小児病理研究会副学会長として中山雅弘先生(大阪母子保健医療センター)が推薦され承認された。

5. 平成21年度会計報告並びに平成22年

平成21年度会計			平成22年度予算		
収入の部			収入の部		
会費	315,000	円	会費	300,000	円
前年度繰越金	758,907	円	前年度繰越金	531,166	円
郵便貯金利息	311	円	郵便貯金利息	300	円
小計	1,074,218	円	小計	831,466	円
支出の部			支出の部		
第29回学術集会補助	300,000	円	第30回学術集会補助	300,000	円
会報発送費(48,49,50号)	26,732	円	事務費	10,000	円
幹事選挙費用	8,000	円	IPPA会費(2009,2010年)	22,000	円
コンパニオンミーティングハンドアウト	154,980	円	会報発送料(3号分)	30,000	円
ホームページ作成料	53,340	円	ホームページ作成料	53,340	円
			コンパニオンミーティング補助	30,000	円
小計	543,052	円	小計	445,340	円
次年度繰越金	531,166	円	次年度繰越金	386,126	円

お知らせ

ホームページのアドレスが変わりました。

<http://www.jspp.info/>

ブックマークやお気に入りの変更をお願いします。

6. 事務局より

◇第30回小児病理研究会には多数の会員のみなさまにご参集いただきありがとうございました◇過去1年分までの未納会費の請求をさせていただき、多数の先生より会費を納入していただきました◇10月8日に開催された関東東海地区小児病理カンファレンスに15名もの出席者があり盛会でした◇小児周産期病院以外に所属している先生の出席もありました◇地区集會を盛り上げ研究会全体の活性化につながればよいかと思います◇日本小児病理研究会会報は年3回(冬、春、秋)発行、会員全員に送付し、ホームページにも掲載しています◇会報、ホームページを通じて、会員相互の情報交換、連絡を行いたい方はE-mailまたはFAXにて事務局までご連絡ください。

日本小児病理研究会会報50号
平成22年10月31日発行
編集・発行 松岡健太郎

日本小児病理研究会事務局
<http://www.jspp.info/>
〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1
国立成育医療研究センター
病理診断部病理診断科
TEL (03) 3416-0181
FAX (03) 5727-2879
E-mail matsuka-k@ncchd.go.jp